



西九州大学を去るにあたって

上 瀧 泰 嗣

○ 油絵との出会い

小学校の頃より、図画工作の時間は大好きでした。しかし、特に目立った生徒ではありませんでした。

中学校二年の時に、美術の先生が赴任してこられ、授業中に美術のおもしろさや大切さを話されました。新しく美術部を創立するというので、親友に無理やり誘われ入部しました。同学年は男ばかり5名、放課後の美術準備室や教室で楽しい部活をしていました。先生の準備室には、制作中のキャンバスや大きなチューブの油絵具、不思議なナイフなどがあり、興味津津で見っていました。

三年生になったある日突然、先生は私に油絵をやってみないかと話されました。

その時の私は、美術の力を認められたと思い喜びました。しかし、考えてみますと公務員の安月給で生活していた我が家に、高額な油絵具一式を購入するお金はないと思い、言い出せませんでした。期待をせずに話した数日後に、購入してよいと言ってくれました。その時の気持ちはまさに「天にも昇る心地」でした。新しい油絵具を手にして、画家にでもなったつもりで制作していました。その時卒業後の進路は「中学校の美術教師になること」に決めていました。

○ 友人との出会い

高校に入学して、まず美術部に入部しました。高校の授業は難しくなり、適度な勉強では間に合わず、周囲の受験勉強モードに巻き込まれ、美術部には顔を出さずにいました。

2年生になり、新しいクラスメートが決定しました。その中に中学校で一緒に絵を描いていた友人M君（当時美術部長）と画家の息子W君、二人の美術部員がいました。

二人は放課後には、そそくさと美術教室に行っていました。ふたりの誘惑には乗らないで勉強に頑張りました。

秋の夜に、M君が家に遊びにきました。「県展に出品しようと思っているが、題材が見つからずに困っている。明日佐世保に行って題材を探すから一緒に来ないか」との誘いでした。明日といっても平日授業のある日だったので、親から大目玉を食うかと思って話したら、すんなり許してくれました。さらに佐世保には親戚がいるから顔を出してくるように頼まれました。翌日は秋晴れで、二人は親公認のサボりを楽しみ、佐世保の町をスケッチしました。親戚に寄ったら、せっかく来たからぜひ泊まれと言われ、友人は辞退して帰りましたが、私は歓待を受け夜は映画、翌日は西海橋の観光と遊びほうけました。

学校をサボった理由が県展の出品作を描くことだったので、絵を描かなければならなくなり、近所にお住まいのS先生の家を訪ねて、ご指導を受けました。放課後毎日のように50号の制作をしている内に、封印していた絵に対する情熱が湧きあがりました。無事に県展に初入選して、面目は立てたものの、すっかり絵の魅力に取り憑かれていました。

○ 二紀会との出会い

佐賀大学特設美術科に入学すると、以前よりご指導をいただいていた石本秀雄先生に師事しました。先生は美術団体東光会の幹部でしたので、なんのためらいもなく、先輩と一緒に出品しました。入選入賞をして会員に推挙していただきましたが、次第に絵の方向が抽象化していき、写実を重視する日展系の東光会に違和感が生じてきました。ある日先生から「無理して東光会に出品しなくてもいい」と言っていただきました。さらに私の進む方向を示唆していただき、二紀会に出品することになりました。石本先生の教育者としてのご指導がなければ、今の私はないと思います。感謝しています。

○ 子ども学科との出会い

2006年（平成18年）3月に、佐賀大学退職記念展を佐賀県立美術館で開き、教職からリタイアし、いよいよ待望の画家の道を歩み始めていました。

2007年（平成19年）に、西九州大学に新設される「子ども学部」に勤務するよう要請されました。大学時代の友人H君は、長崎純心大学教授（現在講師）を勤め、長く幼児教育に携わっています。純心大学に彼を訪ね、教室や学生の作品資料を見せてもらい、幼児教育のあるべき姿を感じました。テキストも紹介してくれ授業への心積もりが出来ました。

2009年（平成21年）4月1日に辞令をいただき西九州大学特任教授として、再び大学人としての生活が始まりました。

4月2日に入学式が有り、第一期生を迎えて新学期が始まりました。

香川学部長を始め先生方も、未経験の「子ども学部」を立ち上げて、緊張と不安で一杯であったと思いました。新しい学部を成功させたいとの強い思いから、先生達がまとまり熱心に仕事に当たられました。

子ども学部学生の多くは、音楽や体育には自信が有りましたが、造形や図画工作は苦手になっていました。まずは学生自信が「図画工作」を好きになって欲しいと考え、難しい技術を踏まえない自由な表現方法を取り上げました。毎時間テーマを変え、忘れていた造形表現の楽しみ・喜びを思い出してもらいました。毎時間の表現方法の違いを、楽しみながら学生の皆さんも、制作してくれました。スケッチブックに制作した作品をスクラップして、自己の画集として、いつまでも残してもらいたいと考えました。

元気で素直な学生さんと4年間一緒にお付き合いできたことは、私の元気の源であり喜びでした。

おかげで欠勤は一日もなく過ごせたことに、感謝しています。

4年間の教育を終えて学生の皆さんは、立派に成長され社会に旅立ちますが、西九州大学で学んだことを糧に、立派な社会人になられることを祈ってやみません。



入学生のオリエンテーションで、神崎キャンパスに行き美しい桜を見ました。この浮き立つような美しさを描いて、学校に記念に残したいと思い描いていました。昨年の春に最終のスケッチをして、完成させました。